

がら笑う

わたくしの自由な精神はどこへ行ってしまったのでしょうか

巴里が、生肉をステーキだと言って聞かないので

三日三晩ステーキを食べました

葡萄牙が、ケーキはボーロだと言い張るので

その生焼けの、命がそのまま混沌として、空気とまじりあうのを嫌がっている、粘性の躍動するボーロを、喉に流し込みました

ウフだと言ったあなたは、いない

生臭い卵殻の風が、身体を巡って、私たちが生きていたのに、どうしてくれるのだと、美しい反乱を起こそうとするとき、わたくしが眠って、漱石の向上心について夢を見ると、太宰の記した盃の絵に、ウヰスキーを注がんとするとき、オダサクが起きだして、細い身体は嫌だ！と叫ぶ、ルパンの椅子のうえ

例えば許しが共時的で、恨みが通時的であるように

演繹は精神を成さず、帰納では意識が生まれないように

卵はそのすべてを知っているのに

我々はそのすべてを食べてしまつて

どうしてひとは死ぬのかと

ひとしきり悩んで

死んでいきます

生きているものを

食べて食べて食べて

それでも

どうして生きているのか